

平成28年度 名寄市議会 議会報告会実施報告

名寄市議会では、議会基本条例に基づき7月22日・25日の2日間、市内6カ所で議会報告会を行いました。

同条例にかかわる議会報告会実施要綱では、議員を4班に分けて実施することとしておりますが、今回は2班に分けての議会報告会としました。

議会報告会には、6会場において76人の市民の方に参加していただき、質問、意見、要望は建設的なものを中心に39項目となりました。改めて参加していただいた皆さんに心から感謝とお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

市民の皆さんからいただいた質問、意見については8月10日正副議長及び議会運営委員会正副委員長会議で内容を精査し、市長へ見解を求めるべきと判断した10項目について同月12日午後5時に正副議長から市長に文書で手渡しました。

現在、議会においては、市民の目線を基本にスピード感を持って議会改革を進めるため議会改革調査特別委員会を設置し、市民に信頼される議会を目指して、議会が一体となって取り組んでおりますので市民の皆さんの声をお聞かせください。



《議会報告会 実施概要及び主な質疑》

【概要】

今年の報告会は、2班体制とし、市内6カ所で議会報告会を行いました。議員で資料づくり、会場づくり、記録、司会を行いました。今年度は試行的に市民の皆さんとの意見交換を主体として行いました。多くの市民の皆さんに会場に来ていただくため、市内報道機関に記事として掲載していただいたほか、議会だよりや市議会ホームページにも日程を周知させていただきました。参加を呼び掛けるチラシを作成し、全議員が1人20枚を直接市民に配布して参加を呼びかけました。

また、全議員が開始の1時間前には会場に集合し、会場設営も自分たちの手で行いました。参加していただいた市民の皆さんには議会運営委員会が作成した議会報告会資料を配布しました。

議会報告会では、議会の1年間の報告として、昨年議会報告会以降に開催された定例会や臨時会の審議状況について、各常任委員会の行政視察について、政務活動費の内容を説明しました。また昨年、設置した議会改革調査特別委員会の進捗状況を説明しました。

このあと、意見交換として「議会改革について」「名寄市総合計画（第2次）の策定に向けて」をテーマに、市民からの質疑や意見聴取を行いました。2つのテーマのほか、市民生活等に関わった意見も多数いただきました。

なお、意見の中から市長の見解を求めべきと判断した10項目については、8月中旬に回答をもらうことになっており、6会場で出された意見等と市長からの回答の内容については、議会だよりや市議会ホームページ等で市民の皆さんにお知らせいたします。



【班編成】

《A班》

班長	奥村英俊	(議会運営委員会副委員長・経済建設常任委員会委員長)
	黒井徹	(議長)
	高野美枝子	(総務文教常任委員会副委員長)
	大石健二	(市民福祉常任委員会副委員長)
	山崎真由美	(総務文教常任委員会委員)
	佐々木寿	(市民福祉常任委員会委員・経済建設常任委員会委員)
	高橋伸典	(市民福祉常任委員会委員)
	浜田康子	(市民福祉常任委員会委員)
	東川孝義	(経済建設常任委員会委員)

担当地区…名寄東小学校、ノースタウンふれあい会館、ふうれん地域交流センター

《B班》

班長	山田典幸	(議会運営委員会委員長・総務文教常任委員会委員)
	佐藤靖	(副議長・総務文教常任委員会委員)
	東千春	(総務文教常任委員会委員長)
	熊谷吉正	(市民福祉常任委員会委員長)
	川口京二	(経済建設常任委員会副委員長)
	野田三樹也	(総務文教常任委員会委員)
	塩田昌彦	(市民福祉常任委員会委員)
	川村幸栄	(経済建設常任委員会委員)
	佐久間誠	(経済建設常任委員会委員)

担当地区…名寄市総合福祉センター、智恵文多目的研修センター、名寄市民文化センター

【意見交換の主な内容】

各会場における意見交換の主な内容は次のとおり。

《A班 名寄東小学校会場 参加9人》

（道路の整備について）

問 19線徳田～緑丘にわたり、高規格道路名寄インターチェンジにつながる道路について、改修の要望を出しているが、議会としても検討しているのか。改修は市民や近隣住民の利便性にもつながるのでは。

答 議会の質問の中で出ており現課に何回か話した経過がある。総合計画に事業搭載する必要があるので市長に要望があったことを伝える。また、所管の常任委員会でも調査研究することにしたい。

（議会改革について）

問 正副議長、各常任委員会正副委員長の任期について、2年制の検討とあるが、4年間しっかりと責任を果たすことが適切ではないか。改選期に向けて議論し新たな体制を作るべきである。

答 議会改革の2年制の問題については、議会の中でもそれぞれ意見がある。市民のご意見として受け止める。

（他に同様の意見が1件あり）

（プレミアム商品券について）

問 昨年の議会報告会でも意見が出ていたが、販売方法に問題がなかったのか。市から実行委員会に対して制度の説明が十分にされていたのか。結果について行政として総括や反省もないのはいかがか。

答 昨年の議会報告会でも指摘を受け、実態の調査をした。調査結果としては購入限度数について厳正な対応がされておらず、市側の指導が不十分であったことが原因とあった。今後はそのようなことがないように議会でも検証しながら対応したい。所管の経済建設常任委員会でも今後議論していきたい。

（JR北海道宗谷北線の問題について）

問 JRの関係で市長は国交省等に足を運んで宗谷線の存続を要望しているが、北海道全体の問題ととらえて運動をしていかなければならない。北海道市長会や北海道市議会議長会を通じて地元の国会議員を含めたオール北海道として国を相手にした取り組みが必要であると考えます。

答 今後において、北海市議会議長会等に対して議会としても声を出していきたいと考えている。大きなテーマでもあるので市長にも要望していきたい。

（名寄市役所の分庁方式について）

問 分庁方式とされているが、名寄庁舎でも風連庁舎でも用を足せるようなシステムにならないか。分庁方式はいつまで継続するのか。建替えの計画はないのか。効率化、財政的な問題など10年間の検証をすべきではないか。

答 分庁方式をとることで、一方の庁舎では手続きのできないこともある。名寄庁舎も古く建て替えの時期が来るが、地域の文化や長い歴史もあるので効率化だけでは判断できない。ご意見として受け止める。

(駅前交流プラザよろーなについて)

問 中心街の活性化につながるとして建設されたが、維持管理費の問題など本当に必要な施設だったのか。施設の稼働率は高いようだが、市民会館にも同様の機能があったのではないか。

答 駅前の賑わいづくりや5・6丁目の活性化を目的として市民が利用しやすい施設として建設された。イベントなどが行われ駅前が明るくなったのかもしれない。議会としてもよろーなが機能を十分に発揮できているか検証しなければならない。

(18歳選挙権について)

問 高校生や大学生に選挙について、参政権についてなど教えることが必要ではないか。今回の参議院選挙でも18歳・19歳の投票率は4割程度であったという。選挙について教えられていなければ戸惑いも生じる。その戸惑いが将来、行政や参政権につながらなくなるのでは。

答 この議会報告会での意見交換については初めての試み。大学生との意見交換会はどうかという話もあったが準備期間が足りなく今回はできなかった。今回の議会報告会の総括をして協議していきたい。議会報特別委員会では名寄高校新聞局の生徒さんに今回の議会報告会の取材をお願いしている。大人たちが何を聞いて議員がどんな説明をするのかを見て行政や政治に興味を持ってもらいたい。

問 大学生は選挙運動をしてはいけないのか。18歳以上に選挙権が与えられ政治にかかわることは必要であると思っている。

答 公職選挙法では18歳以下は選挙運動をしてはいけないとされている。18歳以上であっても、校則などで選挙運動について決まりがあるのかもしれない。

(議会について)

問 議会の傍聴に行くが、議員の質問の内容が似ていることがある。各会派で割振りをしたらよいのでは。答弁者は資料を読んでいるようで傍聴している者にはわからない答弁になっている。また、市民から議会に対して意見等は届いているのか。

答 同じ会派の中では重複しないように調整することもあるが、会派を超えると同じ質問でも視点が違うこともあるので調整はしていない。質問の通告により質問内容は伝えているが、どのように答弁するかはわからない。答弁を受けて、再質問を行っている。議会ホームページには市民の書き込みはないが、はがき等で議会に対する投書があった場合には、議長が必ず目を通してしている。

《A班 ノースタウンふれあい会館会場 出席者16名》

(スポーツ・合宿推進について)

問 士別市では合宿の里として、スタッフの配置や旭川空港への送迎など力を入れて事業を進めることで市に経済効果をもたらしている。名寄市の力の入れ具合はどこにあるのか。

答 士別市の合宿事業は歴史があり名寄市にも参考にしている部分がある。名寄市では平成28年4月よりスポーツ振興アドバイザーとして、リレハンメルオリンピック金メダリストの阿部雅司氏を嘱託職員として迎え入れた。市民の健康につながるイベントや大学や実業団が名寄市で合宿してもらえるようにしていきたい。また、日進地区のあり方についても、市民の憩いの場、合宿など、どのような位置づけにするのか議会でも注視する。

問 阿部雅司さんに期待をするが、市での支援も必要である。市職員にはできないことを阿部さんが活動し、その周りで市職員が育てば成果がでる。体制作りが必要だ。

答 スポーツ振興アドバイザーとして職務を特化して活動してもらおう。市や外郭団体も協力していかなければならない。青少年の育成など活躍を期待する。

(名寄市の人口減少の対策は)

問 名寄市の人口減少に歯止めがかからない。人口減の原因は出生と死亡の関係ではなく、転入と転出の関係だと思う。いかにして転出を減らし転入を増やすのかということについて空き家対策も一つの方法であると思っているが、議員として人口減少に歯止めをかけるためにどのようなことが必要と考えているのか。

答 名寄市のまちづくりについて、考えを持って議員になっている。議員に課せられた課題である。人口を減らさない対策は何か。子どもを産み育てられる環境が大切である。名寄市は北海道住みよさランキングで上位に位置するが、市民が住みよさを感じるまちにならなければならない。名寄市には高校卒、大学卒の就職口が少ない。名寄市に良い職場、雇用の場があれば若者が名寄に残る。

また、交流人口があるということは定着につながる。名寄市の魅力を知ってもらおうお試し移住住宅や新規就農などをめざしながら名寄市の暮らしを体験してもらおう地域おこし協力隊などで、一人でも二人でも名寄に残ってもらえるようになればその情報が全国に発信されることになる。

(公営住宅の環境整備について)

問 市営住宅に住んでいるが、花壇が高くて段差を登れない。草取りなど自分たちで手入れをしたいができない状況にあり、草でひどい状態になっている。市で対応できないのか。

答 市営住宅に住んでいる住民で手入れしてもらおうのが原則だと思う。市で手入れすることはできないかもしれないが、高齢化に伴ってどのような対応が必要なのか行政に確認したい。

(高齢者が暮らしやすいまちづくりについて)

問 道路の重たく硬い雪を玄関前に残され、その雪を除雪することは高齢者には大変だ。買い物についても問題を抱えている。玄関前の排雪や買い物支援など高齢化

で避けて通れない対策である。高齢者が住めないまちでは人口減にも影響する。予算がかかるとか、かからないとかではなく、高齢化に見合った計画づくりをしてほしい。町内会では試験的に高齢者の買い物の送迎をしようと話し合っている。行政で後押ししてくれる体制を議会でも提案してほしい。

答 若い人の人口減には子育て対策などの施策を講じているが、高齢者対策も重要である。生活に密着した施策が必要である。除雪等の問題についても、所管の経済建設常任委員会が除排雪を研究課題として検討を進めている。予算も含めて課題解決への議論を進めたい。

意見 少子高齢化は日本全体の問題である。最近、高齢化率、高齢者という言葉に抵抗を感じている。高齢化率何パーセント等などまち全体が暗く感じる。2025年に団塊の世代が高齢者となった時の高齢化率、定年制の延長などを考えると、今は65歳を高齢者とは感じない。高齢者の考え方を改めて、65歳から70歳に引き上げ分母を変えてみてはどうか。総合計画などにも高齢化という言葉が出てくるが、果たして65歳からを高齢者とするのにふさわしい時代なのか北海道市議会議長会等を通じて国・道等に課題提起をしてもらいたい。

(名寄川周辺のカラマツの間伐について)

問 名寄川周辺にカラマツ人工林がたくさんあるが、間伐が遅れている。深刻な問題である。植えたものがそのままにされている。なるべく早く対応してほしい。行政の取り組みについて働きかけてほしい。

答 林業はこの地域に重要な政策である。何年もかけて育っていくもの。森林・林業・林産業活性化推進名寄市議員連盟としても研修会などを行っているが、実態がわかっていない。貴重なご意見をいただき、行政にどのように反映できるのか検討したい。

(ゲートボール場の修復について)

問 名寄川河川敷にあるゲートボール場が水害の被害により壊れたままになっているが修復することはできないのか。

答 河川敷については市の管轄ではないが、内容を確認して報告させてもらう。

(市道の除雪について)

問 除雪する方向が毎年決まっているので不平等であると感じている。業者等と協議をして1年毎に方向を変えることは可能なのか。

答 除排雪の課題について、現在、経済建設常任委員会で調査研究中である。市民の意見も聞かせてもらい整理したうえで行政に対して意見反映したい。

(名寄市の人事交流について)

問 名寄市と北海道や国との人事交流について、去年は北海道の職員、今年は財務省の職員が名寄市に派遣されている。名寄市職員はその派遣職員の人脈などをうまく利用しようという気持ちが少ないのではないか。市町村職員よりも道職員、国家公務員のほうが情報をたくさん持っている。部署が違ったとしても派遣職員のルートを使って人脈を作っていく意識が必要ではないか。

答 総合的な評価は意見と食い違うところもあるかもしれないが、議会としては人事交流について、評価はできるのではないかと考える。情報提供や上部へつなぐことなど、これがこの職員の結果だということは見えてこないかもしれない。今、派遣している、派遣されている職員はこれからに期待したい。

(議会改革について)

問 議会活動の改善について、議員相互間の自由討議とはどのようなイメージか。

答 付託案件、条例審査にもいろいろな考え方があって、視点が違うと良い悪いだけでなく、議員間の意見を交換できる。賛否がわかる場合には本会議場でもルールに則って意見を出す。討論をするというイメージ。一部の意見が正当ではなくそれぞれの意見を出し合うということが大事で活性化を図る。議員も賛成反対だけでなく、議論をするには勉強やデータもないとできない。そこが資質向上につながるという考え方もある。

問 議会のIT化について、議会のホームページ、インターネット配信の拡大とあるが、現状の利用者等分析に基づいて検討しているのか。高齢化とIT化の問題は相反するように思う。総合的に考えてほしい。インターネットを見ないお年寄りが議会で何をやっているかわからないとならないように対応してもらいたい。

答 インターネットの利用者数など現状はつかみかねている。配信の拡大については本会議、決算・予算特別委員会だけでなく常任委員会についてもインターネット配信ができるかなどを協議する。改革項目として掲げているが、実際にどのようにするのは今後検討する。今は常任委員会の活性化について協議している。以降は優先順に協議していく。議会報特別委員会では議会だよりをより見やすいものにしてお年寄りをはじめ市民の皆さんに読んでもらえるものにしたい。

問 常任委員会の行政視察について、視察報告には視察した事項を名寄市でどのように活用するのかということも報告してもらいたい。

答 今年度からそのように進めていきたい。

《A班 ふうれん地域交流センター会場 出席者26名》

(施策実現にスピード感を持って)

問 乳幼児紙おむつ用ごみ袋支給事業など8年も前から話があった。自分の子は4歳になり紙おむつも使わない年齢になった。いい制度が形になるのが遅い。いいものは早く形にしてほしい。

答 予算化するのにある程度時間がかかっている。優先順位という言葉は適当ではないが、どこから手を付けるかという面もある。議会として市民の思いを伝えていかなければならないと思っている。

問 学童保育について、開所時間の変更について何年も前から要望している。今年度の説明会の時も要望したが、「アンケートで実態を把握する」といったが、1学期が終わってもアンケート調査は実施されていない。市の対応が遅いと思う。

答 議会としても質問をし、アンケート調査を実施するという回答であった。意見交換会で出た意見の中で必要なものは市長に回答を求め、市民にフィードバックする。スピードを上げて検討する必要があると思っている。

(風連旭、日進地区スクールバスのバス停について)

問 風連旭小学校の統廃合に関わってのスクールバスのバス停かと思うが、かなりの年数が経ち朽ちて地域の景観を損ねている。キツネが巣を作ったり、害獣が住み着いている。予算の執行上いろいろな問題もあるかもしれないが、時代が変わっても整理されないまま残されている。整理していかなければならないのでは。

答 教育委員会には相談している。状況は把握しているようであるが、日進地区を含む地域の交通にも絡むことであり、将来にわたり何を選択するのか考えなければならない。いろいろな立場の人が認識を共有し、地域の声などいろいろな意見を聞きたい。

(防災対策について)

問 一昨年8月には集中豪雨の被害があった。議会の中で災害時の対応はどのように進むのか。町内会では連絡体制を作り、自分たちでやれることはやろうとしているが、自分たちではできない部分、河川の改修などは十分なのか。行政も議会も災害があった後に対応するのではなく、雑木で水の流れが悪い等、現場に出向いて状況を普段から把握する体制はとれないのか。河川によっては、管轄が重なっているところは災害後の対応も不十分である。現状を理解して、市政ではないかもしれないが国や道に訴えてもらいたい。

答 議員の活動として、地域の河川等についても理解していかなければならない。災害時に議会が果たす役割について、防災についての議員研修会を行い勉強をする。まちづくり懇談会などで出される要望に耳を傾け、議員としても活動していかなければならない。

問 雑木の処理を早急に行ってもらいたい。市で対応できない部分は、道なり国に要請してほしい。

答 以前に一度処理をしたことがあるが、それからかなり時間が経過している。被害を起こすことにもつながる。要請していきたい。

意見 一昨年8月の集中豪雨の時は、過去の水害の経験により、田んぼの水を止め、一時的に田んぼに雨水をためる田んぼダム の取り組みにより被害が減少した。有効な手段だが、上流から地域全体で取り組むことが必要である。地域間が協力し、誰かにやってもらうではなく、自分たちで防災に取り組むことが大切である。

(農地の維持と人手確保について)

問 町内会は農村地帯であるが、42戸のうち農業者は12～13戸。ほとんどがリタイアしている。農業者には若い人もいる。これからの課題は農地の維持と人手の確保だと考える。農業のIT化やGPSの活用など若い人が将来希望を持って安定した農業をできるようにしてほしい。名寄市全体の問題である。

答 農村地区の問題についても行政では理解している。人手不足の実態調査をし対策を講じるとしている。IT化やGPSについては担当部署でないとわからないがこれからの農業振興には欠かせないものとなるだろう。

(病院職員の対応について)

問 生活支援員をしている。障がいを持っている方の病院の付き添いや市役所での諸手続きのお手伝いをしている。病院受診の付き添いをしていると、職員の対応が冷たいと感じる。背景には多忙な業務や患者側の病気等による理解不足などがあるかもしれないが、人間の尊厳が守られる対応をしてほしい。職員の接遇教育などが必要であると思っている。

答 病院にしっかりと伝えたい。

(議会改革について)

問 議会改革の新聞報道等で正副議長の任期についての話を聞くが、2年制が市民やまちづくりにどのようにプラスになるのか考え方を聞きたい。議員提案で手話条例が制定されたが、その後、議員提案の動きはあるのか。

答 議会改革調査特別委員会では市民に信頼される議会をめざして、常任委員会の活性化について議論している。多くの経験をするということで常任委員会の2年制、あわせて正副委員長、正副議長の2年制についての意見もあったが、その議論には入っていない。議員提案による条例の制定については、着手していない。今は議会改革を主眼にやっている。

(若い人の町内会活動への参加について)

問 町内会の高齢化により活動にも苦労している。今日は名寄高校の新聞局の生徒さんが来ているが、高校生が地域活動に参加できるような方法考えられないか。地域の人が集まることでコミュニケーションができ防犯や防災につながっていく。

答 高校生もボランティア活動で地域に関わっている学校もあるようだ。大学生は実習の一環でもあるが老人クラブや町内会で活動している。大学は地域に貢献するという学長の思いでもあるが、いずれ高校生にも波及していくのではないか。

(高齢者への配慮について)

問 風連日進湖畔は桜の名所であり、老人クラブで桜を見に行きたいと考えるが、高齢者で車を持たない方も多く、バスを借り上げて実施した。子どもたちには「親子お出かけバスツアー」などの事業があるが、できれば高齢者にも同じような交通手段の配慮ができないか。

答 それぞれの老人クラブに対する配慮ができないのか、補助制度などを意識して相対的に考えなければならない。意見として受け止める。

(スポーツ・合宿等について)

問 スポーツ・合宿について、受け入れの施設はどのような状況なのか。宿泊施設など十分にあるのか。移住・定住促進事業に関わって、東風連小学校の閉校により教員住宅が空いている。利用したい人もいると思うが、どれだけ手を加えてもらえるのか。

答 スポーツ・合宿については平成28年4月から担当課を作りスタートしたばかりである。宿泊施設はサンピラー温泉など。施設の的にも充実させていかなければならない。地域からも声があると伝えていきたい。移住・定住促進事業については市内にお試し移住住宅がある。名寄に定住した世帯もある。少しずつでも増えて情報が発信されていけばよい。定住の施策として、空家をリフォームして移住や合宿に活用できればと考えている。

《B班 名寄市総合福祉センター会場 出席者4名》

（議会について）

意見 議会だよりなどを読んで名寄市の現状を少しは理解しているが、一般市民には議会用語など分かりにくい。もう少し噛み砕いて説明していただくと良いと思う。

意見 道新に北斗市の高校生の投稿の記事があったがご覧になったか。これは名寄市議会にも当てはまる。議会報告会も市長との懇談会と同等。市民生活を維持・向上させるのは議会である。報告会の参加者がこれだけ少ないのは、市民と議会、議員と市民の間が遠く薄くなっているからではないか。

（市議会の傍聴について）

問 市議会の傍聴は2、3回しか行ったことがないが、いつもわずかな傍聴者しかいない。市としての大きな目玉があれば市民も関心を寄せて傍聴に来ると思うが、いつも定例会にはどのくらいの傍聴者がいるのか。

答 以前ポスフル進出問題の際傍聴席が満席になったことがあるが、それ以後はない。ピヤシリ大学の学生さんが傍聴に来ていただくとき満席近くはなるがそれ以外は一般質問を行う議員の支持者がきて10人前後。一般質問以外の日はほとんど傍聴者はいない状況である。

（行政視察について）

問 行政視察について、市民に対して内容を報告するべき。また、政務活動費についてもどのように使っているのか市民に対する説明が必要である。今の議員の活動範囲の中では必要ないのではないか。

答 現在各委員会においてテーマや目的を明確にして行政視察を行っている。また、視察の報告は委員長が議場で報告をしている。今後行政視察の結果をどう市政に反映させるかという部分は、各常任委員会で検討しながら活動しているところであり任期中に結果が出ると思う。また、市民に対する説明については議会改革の中で議論したい。

（総合計画について）

問 第一次総合計画について、達成度などの評価、反省なくして第二次計画はない。チェックするのは議会の仕事だと思うが、どう考えているか。

答 市の基本構想、基本計画は議会の議決事項であり、次期総合計画は9月議会に提

案が予定されている。次期総計の10年は名寄市が生き残っていくための10年間であるので議会として第一次総計の検証を含め徹底的に取り組んで行く。

《B班 智恵文多目的研修センター会場 出席者6名》

(農業政策について)

問 地域の農業について、高齢化と戸数減が懸念される。新規就農対策を含め農業政策をしっかりとやってほしい。

答 地域選出の議員を含め、議会、行政とも現状は理解している。名寄市の基幹産業は農業、今後も引き続き行政と対策を検討していく。

(智恵文に介護施設を)

問 高齢化が進み介護を必要とする人が増えてきているが、智恵文には介護施設がない。生まれ育った地でいつまでも暮らせる環境づくりが必要であり、地域に介護施設建設の要望を市長に提出している。議会としても理解してほしい。

答 総合計画の中でこの地域となるかは申し上げられないが、議会全体で共通認識とし課題として受け止める。

(議会改革について)

問 正副議長の任期について、4年を2年にするという話題が出ているようだが、2年にしてどれだけ市民の理解を得られるのか、2年で何ができるのか、成果は何があるのか。

答 議会改革の議論の中で、早急に2年制を検討すべきとの提案があった。どちらが良い悪いということではなく、現状では任期に対しての共通認識が図られておらず、今議論すべき課題ではないと委員会の中で判断をした。

(議員報酬について)

意見 議員の選挙が無投票に終わったが、議員になっても生活がかかっているのである程度の報酬がないとなり手もないのでは。報酬などは減らせばいいというものではない。議員にはしっかりと働いてもらわなければならない。議員活動に専念できる環境を作るべき。

(行政の対応について)

問 農業関係の各種事業について行政の対応が遅い。また事業の内容等についても理解が不足しているし、情報の周知・伝達方法にも問題がある。

答 行政の対応について同様の意見を多く頂いている。今後の対応については所管にも伝えているが、改めて地域の声として伝え改善していきたい。

《B班 名寄市民文化センター会場 出席者15名》

(JR北海道宗谷北線の問題について)

問 宗谷北線の問題について、このたび行政が国交省に陳情を行ったが、行政側の動

きはこれまで鈍く緩慢であった。議会としても質問するだけでなく、共闘の体制を作らなければならないと思うが、何か取り組みや動きはあったのか。

答 国に対して意見書を提出している。無人化の問題など質問は出るが後手後手の対応となっている。市長に対応をお願いしているような状況であり持ち帰り検討したい。

(他に同様の意見が1件あり)

(議会改革について)

問 議会改革の中で、正副議長、3常任委員会正副委員長の2年制の問題が出ているが、2年制にするメリットはどこにあるのか。18名の定数の中では市民から見るとたらい回しのようにしか見えない。不都合があるのなら変えるべきだが、ないのであれば議会改革の論点ではないと思う。委員会の機能強化としては、議会基本条例の中で委員外議員としての出席を認めている。この1年間で委員外議員として出席した人数は何人いるか。

答 新人議員が多いということもあり各委員会に自らの勉強のため時間があれば出席している。委員会に1~2人いる状況。任期については様々な考え方があったが、現状では優先して検討すべき事項ではないと委員会の中で判断している。

(議会の広報広聴について)

問 昨年7月に名寄に転入し、これまで3度議会を傍聴した。その際アンケート用紙に記載をしたが、記載した意見はどのように反映されるのか。意見を拾いあげて市民に知らしめるためのアンケートではないのか。

答 傍聴の際のアンケートは議長まで目を通して。必要あるものは議会内で共有するが、市民に伝えることができていなかった。頂いた意見は今後反映させたい。

問 年配の方はインターネットは見えない。活字で報告されるのが開かれた議会だと思いが。

答 貴重なご意見として受けとめさせてもらう。議会だよりもたくさんの方に読んで頂ける良いものにしていかなければならないと思っている。

(議員定数について)

問 議員定数について、合併後定数を削減してきたが、現在18人になって議会運営ができているのか。常任委員会が機能しているのか。削減ありきではないと思う。18人になって2年目、検証をしてほしい。定数は市民の声を聞き、市と共に市政を運営するために必要な人数を全体を見て探してほしい。

答 貴重なご意見として受けとめさせてもらう。そこを含めて議会改革の中で議論したい。

